

学校教育ビジョン
学校教育目標「これからの時代を生き抜く、たくましい東谷口っ子の育成」
 ・児童も教師もやる気と自信にあふれる学校
 ・全職員が同じ方向に向かって迅速に組織的に行動できる学校
 ・保護者や地域から信頼される安心安全の学校

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	基礎基本の重点	・各々の授業で、個に応じた問題に取り組み、基礎基本の定着を図る。	辻(研・学)	基礎基本の面で十分力がついていない児童がいる。	【成果指標】 学期末テストが80点以上の児童の割合	学期末テストが80点以上の割合 A 80%以上 B 70% C 60% D 60%未満	学期末テスト 国・算・社・理 7月・12月	A	A	中間に引き続き 全体としてはA評価となったが、Aに届かない学年、教科も見られる。特に、高学年の算数科で伸びがなかった。次学年に上がる前に、練習問題、活用問題等、復習を行い、苦手分野を少しでも解消できるようにしていきたい。
	学びの定着	・「読み」の基礎を積み上げ、くり返し活用することで、児童に確かな読みの力をつける。	中川(研・学)	読解力・語彙力に課題があり、学び合いが深まらない	【満足度指標】 児童・学期ごとの目標振り返りに関する満足度(読解力について) ③読みを活かして表現する力について 教師・3つの観点と意識して授業ができたか	児童・教員とも 肯定的評価が A 90%以上 B 80% C 70% D 70%未満	児童アンケート(7・12月)振り返りによる見取り 教員アンケート(7・12月)	B	A	今年度始めた取組が習慣化し、「読み」の基礎の積み上げからついた力を実感している児童が増えた。しかし、実際にどれだけ読解力・語彙力がついたかを検証方法に課題があり、教員が共通理解して取り組んでいく必要がある。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	楽しい学校	・学期に1回、集会や学級活動を利用して、いいところを認め合う取り組みを行う	山村(生指)	94%以上の児童が学校は楽しいと答えているが、登校を渋る児童も見られる。	【満足度指標】 児童アンケート「学校に行くのが楽しいですか」と答えた児童の割合	児童の肯定的評価が、 A100% B90%以上 C80%以上 D80%未満	児童アンケート(7・12月)	B	B	2学期は92.7%の児童が肯定的な回答しており、肯定的な割合は微増した。スポーツフェスティバル、持久走大会には各自もてもって臨むことができた。コロナ禍の中、児童の機嫌のつながりが希薄になっており、高学年の活躍の場が見られないのが残念である。今後は、高学年が達成感を味わえる場の設定を考えていく必要がある。
③キャリア教育・進路指導	自分の取り組みや仕事に目標を持ち、意欲的に取り組む	・キャリアパスポートを活用して目標を設定し、子どもの実践につながるようにする。	教頭(総)	自分の取り組みや仕事に対する意欲付けに課題がある。	【満足度指標】 自分の目標を持ち、実践することができる。	児童の肯定的評価が、 A100% B90%以上 C80%以上 D80%未満	児童アンケート(7・12月)	B	B	児童の肯定的評価の7月は92.7%だったが、12月は95.1%と微増。2学期は、スポーツフェスティバルや持久走大会などでもめあてを取組めた。また、キャリアパスポートの活用が職員に意識付けられたため、その活用により、取組みごとのめあてを児童に意識し持たせることができた。次年度もキャリアパスポートを意識し、児童に取り組ませたい。
④保健管理	健康な生活習慣の確立	・週1回の衛生検査を通して、衛生に関する項目について、児童や保護者の意識を高める。	清水(生指)	昨年度の衛生検査の結果、すべての項目に○をつけた児童が35%で、清潔な生活習慣が身につけていない児童が多い。	【達成度指標】 衛生検査の結果、清潔に気をつけている児童の割合	衛生に関する項について 児童の達成度が A 90%以上 B 80% C 70% D 70%未満	衛生検査結果(7・12月)	C	B	学期末に家庭への協力をお願いし、2学期は、83.9%の児童が清潔に気をつけるようになったことが、衛生検査の結果でわかった。今後も健康委員会の児童の呼びかけや、抜き打ち検査などを実施し、感染症予防のためにも、衛生に関する意識を高めていきたい。
⑤安全管理	避難訓練への意識の向上	・事前指導と振り返りの充実を図る。	教頭(総)	児童は訓練に真面目に取り組んでいるが、危機意識の程度や、自主的な判断ができるか等、不明である。	【努力指標】児童・教員アンケート 訓練に確し、安全への意識を確認したり高めよう努力したか。	児童・教師とも 肯定的評価が A 90%以上 B 80% C 70% D 70%未満	児童・教員アンケート 訓練ごと(学期1~2回)	A	A	教員100%、児童95.1%が肯定的な評価。2学期以降の避難訓練では、火災、地震、防犯について訓練を実施できた。引き渡し訓練が実施できなかったため、次年度は、コロナ対策を踏まえて実施を進めたい。
⑥特別支援教育	個に応じた指導と支援	・支援状況と課題を全職員で共通理解を図り、家庭や外部機関とも連携し、組織的に取り組む。 ・支援の一覧表を作成し、個に応じたきめ細やかな指導・支援を行う。	清川(生指)	一覧表で支援の計画はできているものの、実践することの難しさがある児童がいた。	【努力指標】 個に応じた適切な指導と支援を行うことができたか。	個別の支援の実現が A 90%以上 B 80% C 70%以上 D70%未満	個別支援一覧 7月末 12月中旬	B	A	100%の教員が肯定的な評価。一覧表を基に全職員が子どもたちの実態を把握し、指導・支援を行うことができた。また、毎月の発達支援の会で子どもたちの様子を見合い、支援方針について相談したり、意見を交換しあうことができた。来年度も個に応じたよりよい支援ができるように、担任一人ではな全職員で支援方法を考え実践する体制をさらに整えていきたい。
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化	・定時退庁を月2回全職員共通実施	教頭(総)	勤務時間に関する意識は高まってきているが、業務効率を高める余地がある。	【努力指標】 勤務時間を意識し、効率的な業務を遂行できたか。	超過勤務時間が80時間を超えない職員割合が、 A 100% B 90% C 70% D 50%	勤務時間調査 6月 11月	A	A	6月は、超過勤務時間が80時間を超えない職員が100%であったが、55%の職員が45時間を超えていた。12月も80時間を超えない職員は100%。さらに、45時間を超えない職員は、22%となっていた。定時退庁の目標を定めた後、月別に位置付けたり職員間の意識が高まったことが結果に表れた。次年度も勤務の効率化と職員の意識を高めるように働きかけたい。
⑧研修	職員研修の充実	・職員の資質向上、今日的課題を取り上げ計画的な校内研修を実施する。	山村(生指)	・校内研修が職員のニーズに合っていない ・モデルリーダーの育成は急務である。	【満足度指標】 職員アンケート 「学校研修で得た情報や知識が有用であったか」	職員研修が有用と答えた職員の割合が A 90%以上 B 80% C 70% D 70%未満	教員アンケート 7月末 12月中旬	A	C	2学期は、ICT教育の研修は充実したが、職員が求める研修会が開けず不十分であった。冬季休業中から3学期にかけては、アンケートをもとに必要な高いテーマを取り上げ、研修を行っている。
⑨保護者、地域との連携	開かれた学校	・「便り」や、HPを活用し学校の様子を保護者に伝える。保護者アンケートや学校関係者評価委員会により保護者や地域の声を学校運営に生かす。	教頭(総)	定期的なホームページ更新や、学校よりの発行が定着したが、学級だよりについては担任の裁量に任せている。	【満足度指標】 保護者アンケート 「学校便りや学級便り、ホームページ等で、学校の様子がよくわかりますか」	アンケートの肯定的な回答の割合が A 90% B 80% C 70% D 70%	保護者アンケート 7月末 12月中旬	A	A	保護者の肯定的評価は92.7%。7月より微減はあるが、校内行事等におけるホームページの更新、学校だより、図書、保護の各便りは毎月定期的に出されていた。学級だよりの差はある。知らせるべき内容は伝えられている。アンケート項目の追加で「学校の様子がよくわかる」という点では、もう少し学校の様子を伝える共通理解を進めたい。
⑩教育環境整備	学習環境の整備	・掲示板を活用し、各学年の学習の取り組みや読みものを児童に示す。	杉本(研・学)	掲示を見るようにはなったものの、興味を持たせる掲示の工夫が必要。	【満足度指標】 児童アンケート「掲示を見て他学年の学習がわかりましたか」保護者アンケート「学習環境が整い、学習の様子がわかりましたか」	アンケートの肯定的な回答の割合が A 90%以上 B 80% C 70% D 70%未満	児童・保護者アンケート 7月、12月	A	A	保護者の肯定的評価は95.1%(7月はコロナの影響で保護者アンケートにせず教員アンケートとした)児童の肯定的評価は92.7%であった。以前よりも掲示物を交換したときの反応はよくなったように思われるので、今後も見たくなる掲示の仕方を工夫していきたい。

学校関係者評価

前期(10月30日)
 ・臨時休業による学習の遅れのないように、主体的・対話的な深い学びの実現を進めてほしい。
 ・タブレットPCを授業で活用し、個に応じた学びの実現をお願いしたい。
 ・コロナ感染対策として、手洗い後のペーパータオルの使用について検討してほしい。

後期(2月12日)
 ・コロナ感染対策をしながら地域や人のかかわりを大切にした取り組みや学習を進めてほしい。
 ・業務改善・効率化を進め、職員のゆとりを保持し、心に余裕がある中で児童と向き合えるようにしてほしい。
 ・学校関係者評価委員には、女性目線の意見があるといいので、PTAの母親委員長に次年度加わってもらいたい。
 ・児童の得意分野を見極め、伸ばす指導をお願いしたい。